



withコロナの時代に わたしたちが考えたこと

北鎌倉女子学園

目次

page3 「春の思い出」 (中学3年、高校1年：4月上旬課題)

page8 "STAY HOME" 自粛期間中に考えたこと
(高校1年、3年音楽科)

page 12 非常事態における音楽の意義
(高校2年音楽科)

page16 私たちが今回コロナに立ち向かうとして、
SDGsの何番が効果があると思いますか？
(中学1年：4月20日課題)

page17 コロナ禍により問い直されるグローバル資本主義と
民主主義について
(高校3年：4月16日課題)

page24 「コロナ後」の日本の「インバウンド政策」について
(高校2年3年：4月20日、30日課題)

page27 「コロナ後」の日本の「働き方改革」について
(高校2年3年：4月20日、30日課題)

page34 「アマビエ」ブームについて
(高校1年：5月1日課題)

page36 新聞の投書欄を読み、自分が今社会に訴えたいこと
(高校2年：4月21日課題)

page39 withコロナの時代に私たちが考えること
(中学2年：6月23日課題)

「春の思い出」 (中学3年、高校1年：4月上旬課題)

中学3年

また来た四月。桜。新しい学年になる私は気合が入っていた。だって15歳にもなったのだから。ワクワクしながら学校に行くのを待っていたが、コロナウイルスは優しくはなく、学校に行かせてくれなかった。とても私は悲しんだ。友達と会って話をしたり、笑ったりしたかった。

家での勉強が始まった。朝オンラインで話を聞くことになり嬉しかった。だが、少し友達との距離を感じた。四月に入り、私はこの休校をいい機会と考えて、いくつか目標を掲げてみた。一つ目は、家事ができるようになるために手伝いをする。学校生活を送っていると、帰ればご飯があり、お風呂があり、の日常だった。これではいい大人になれない。休み中、家事でできることを増やそうと決めたのだ。二つ目は、自分を見つめ直そう、だ。私は雑に行動する時など短所がたくさんあり、いつも叱られていて、反省していた。そんな自分がイヤだった。だから、この機会に短所、弱点といった悪い面をどのようにしたら克服できるか模索中である。まだまだたくさん目標はあるから、一つずつクリアしていこうと思う。

今日、明日、また新たなページが生まれるのだと思う。また皆に会える日はあるのだろうか。ゴールは見えないが、私は私なりに乗り越えていこうと思う。

中学3年

桜が舞う春の時期は私が一番好きな季節だ。私は四月生まれ。今ポンディングを片手に国語のノートを広げている。私はちょうど十五年前に生まれた。生まれ月ということ以外にも春が好き理由がある。春は色々なことが新しくなるからだ。新しく出会う友達がいる。今までとは違うことに挑戦したくなる自分がある。卒業や別れは寂しいけれど、新しい一歩を踏み出すために背中を押してくれる人がいる。何かが新しくなることは、今までのことを忘れることじゃない。だから、春は少し明るい気持ちになる。

中学3年

憧れていた中学生。制服に身を包み、中学校生活が始まったあの日。私に中学校初の友達ができ。あの日の教室はとても静かだった。今では想像ができないほどクラスメイトはおとなしくて担任の先生の声だけが響いていた。

私はその日の朝、電車内で怖いことに遭遇した。どうしても誰かと一緒に帰りたいと思った私は友達を作らなくては…と何かに追われていた。ふと振り向くと後ろの席に座っていたのは入学式で隣に座っていて私が初めて話した子だった。プリントを回す時も目が合うたびに笑いかけてくれる彼女と友達になりたいと思った。しかし、いつ声を掛ければいいのか。何度も勇気を振り絞るけれど話しかけることはできなかった。

ラストチャンス。帰りのホームルームまで先生を待っていた時、私はメモ帳を取り出した。大きなメモ帳に少し小さな字で「私と友達になってください。」私は勢

いよくその紙を彼女に突き出した。恐る恐るみると、彼女はまたあの素敵な笑顔で私に笑いかけた。そして「うん！！」と頷いてくれて、私たちは友達になった。私達はテストの時は必ず前後の席になる。今は彼女に紙を突き出すことはないが、テスト数分前にいつも手のひらを突き出す。彼女も必ず応えてくれる。ハイタッチだ。この行為が私のやる気スイッチを ON にする。

あの日から何も変わらない、あの笑顔も、私たちの関係も。

彼女と友達になってもう二年が経つ。彼女は音楽科で、私は普通科。今年が彼女と同じクラスで過ごせる最後の年だ。高校に進級して別々の道に歩むことになるが、私たちの関係はきっと変わらないだろう。毎年春が訪れてこの淡い思い出を思い返し、彼女に連絡するのだ。そして、私はこの言葉を彼女に突き出すだろう。

「いつも、ありがとう」と。

これが、わたしの、春の初々しい大切な思い出だ。

「センチメンタルな季節」

中学3年

私は桜の咲く季節、春になると毎年悲しい気持ちになってしまう。何かを卒業したり、人と永遠の別れをしたりしているわけでもないのに、だ。思い返すとこの気持ちは小学五年生くらいから芽生え始めてきた。初めはあまり実感が湧かなかったが、じんわりじんわりと私の心に浸透してきた。中学一年生くらいになると、私の中で春は「何かわからないけれど泣きそうになっちゃう季節」と決定された。この気持ちになるのはぼーっとしていたり昼寝から目覚めたりした時、何というか

「無」の状態になっていると襲われることが多い。スッと心に入ってきてスッと出ていく風のような気持ちだ。

私はある時、母の解説付きで小さいころよく通った道を散歩していた。母の話を聞きながら歩いていると、ふっと「あの気持ち」がやってきた。そしてそれと同時に「もう小さいころにはどうやっても戻れないんだな」と思った。私はその時やっとこの気持ちの正体がわかった。私はたぶん悔しくてもどかしいのだ。もう二度と戻れない月日、どんなに帰りたいと願っても、どんなにあがいても、時は一方通行で進んでゆく、このことが本当に悲しいのだ。

春はのんびりとしている季節で、あの何も考えなくてよかった頃と重ね合わせてしまうのだろう。無理に決まっているのに。だからこそ、この時を、この瞬間を、私たちは大切に生きていかねばならないと思う。

春の思い出

高校1年

人は何のために生きるのだろうか。ただ、生まれてきたからだろうか。幸せになるためだろうか。先月、祖父が病気で亡くなった。大切な人を失う傷みを知った。そして私はふと疑問に思ったのだ。人は何のために生きるのだろうか。大抵の人はこの質問を聞かれたら答えに躊躇うだろう。私も同じだった。いずれ死んだら何も残らないと思ったからだ。

歴史に名の残るような素晴らしい業績をあげた有名人でさえもその見えない壁にぶつかっている。ジョン・レノンは「ビートルズは欲しいだけ金を儲け、好きなだけ名誉を得て、何もなかった」と述べた。ドイツの詩人ゲーテは「結局私の生活は苦痛と重荷にすぎなかった。75年の全生涯において真に幸福であったのは4週間となかった」と言った。各々の分野で世界の頂点を手に入れた人でさえも、生きがいとは結びつかないということだ。

そして私は思った。人は生まれてから死ぬまでの半分以上を勉強と稼働に費やす。人間はその権利を全うするために生きているのだろうか。きっとそれは違う。70年、80年という短い人生の中で、自分の生きる目的を探すためだと思う。言い換えれば、人生は自分探しの旅なのだ。勉強や稼働はその目的を探す、達成するひとつの通過点にすぎないのだ。

しかし必ずしも、自分の好きなことをすることが生きる目的ではない。「好きなこと」と「生きる目的」を一緒にするとジョン・レノンやゲーテのようになってしまう可能性もある。高校生になった今、私は「生きる目的」、今後の将来の道を探す材料として、勉強、部活、ボランティアなどを、自分の視野を広げる選択肢として頑張っていきたい。

~春空色のランドセル~

高校1年

桜が満開に咲きました。道の端には黄色いたんぽぽが笑っています。今年も春がやって来ました。毎年、あなたはこの季節を楽しみに待っていましたね。色とりどりの花が咲いて、鮮やかに染まる春を。

ある暖かな5月、私の大好きな人はこの世を去りました。雲ひとつない青空が広がり、たくさんの花が咲き誇っていたそんな日でした。私の祖父はいつも笑顔で溢れている。そんな人でした。私がまだ6歳のころ、「ランドセルは水色がいいな〜」っと一度だけ呟いた時がありました。私は昔から、おねだりをしない子供だったので人には直接言うことができませんでした。当然、そんな呟きは誰にも聞こえていないものだとばかり思っていました。それから何ヶ月か経って3月になり、幼稚園を卒園したその日、母に連れられて祖父母の家に向かいました。家から近いため、そんなに珍しい事ではありませんでした。まさかその時は、思ってもいなかったのです。この日、私が一生の宝物と出会う事を。

「いらっしゃい、今日からお姉さんね。」 祖父母の家に着くと祖母が笑顔で出迎えてくれました。祖父母の家には、たくさんの親戚の人が集まっていて、テーブルには見たこともないくらいのお寿司が並んでいて、私は驚きと喜びで目が輝きでいっぱいでした。そんな私を全員が 暖かな視線で見つめてきて、何かなと不思議に思った時、大きな椅子に座った祖父が立ち上がって、優しく「おいで。」と言って、少しずつ歩き出しました。祖父は若い時、交通事故で足を悪くし、ゆっくりしか歩けなくなってしまったと母から聞いたことがあって、歩き出すのもやっとの事でした。そんな足で私を離れの部屋へ連れて行って、お仕入れから大きな箱を取り出して、開けてみなさいと、笑顔で微笑みました。この頃の私にはその字は読めませんでした。この箱の中身が何かは一目でわかりました。

「あ...ランドセルだ。」 そう思いましたが、ランドセルの色は定番の赤色だろう...と何も期待することなく箱を開けました。しかしそのランドセルは、晴れた春の日の空のような、淡い綺麗な空色をしていたんです。銀色のハートの形をしたパーツが二つ付いて、ラインには水色の草尾の刺繍が。側面には青と少し濃い色のハートの形の刺繍がほどこされたランドセルです。今思うとこの瞬間、これまでにないほどの幸せと喜びを感じました。このランドセルと同じ物は、確かにこの日本中にあります。小学生なんてみんなランドセルを背負っています。このランドセルだってその中の一つに過ぎない。それでも、自分にとってはこの世で一番の宝物となりました。自慢のランドセルです。

小学校に入学して、年が経つにつれて、淡い空色をしたランドセルは少しずつ燻んでゆきました。春がきて、夏がきて、秋、冬と毎年変わりゆく季節と共に色あせた宝物は、だんだん忘れ去られていきました。毎日、家に帰れば放り出され、傷もたくさんつきました。入学してから月日が流れ、私は気づけば4年生となっていました。その春のある日、私は学校から直接、祖父母の家へ遊びに行きました。家には誰の気配も無く、物静かな空間でした。祖母はよく近所のスーパーに買い物に行く時間だったので心配はしませんでした。滅多に外出などしない祖父がいないのは不自然に思えてしまいました。心配で家中歩き周り、お庭に出てみると祖父が微笑ましく空を見上げていました。何をしているのかと尋ねると、優しい笑顔でこう言いました。「春の空は綺麗だ。青くて、澄んでいて、穏やかだよ。ほら、梅の花も咲いて、いい香りがするだろう。今の季節をいっぱい味わいなさい。こんな綺麗な季節、あっという間に終わってしまうよ。」この日、初めて季節を美しいと思えることが出来ました。こんなに空や花や景色を愛おしく思う事ができるなんて、自分でも不思議なくらいでした。それから、春が来るのが待ちきれなくなりました。「早く来い、早く来い」と思うのです。

そしてとうとう、小学校最後の春がやって来ました。暖かな日が毎日のように続いていた幸せな春。そんな日々に少しずつやって来たある神様。これが人の役

目なのだと、生きるものの定めなのだと、そう言って、ある暖かな5月、神様は祖父を迎えにきてくれました。ですがこの日、私は生まれて初めて春という季節を恨みました。春が来なければ、この日が来なければ、と。その日から毎日、涙が止まらなかったです。悔しさと、もういないのだという悲しさで、胸が張り裂けそうでした。春なんて大嫌いだ。そう思った瞬間、部屋にあったランドセルに目がとまりました。祖父がくれたランドセル。淡い空色のランドセル。祖父が旅立ったあの空と同じ色のランドセル。私はその時、この季節でよかったんだと思えることができたのです。祖父が大好きなこの季節に…。雲ひとつない綺麗な空の日に…。色鮮やかな花が咲き誇ったこの時に…。旅立つことができて。小学校最後の一年は、このランドセルを背負うと祖父が背中を押してくれている。そんな気持ちになりました。

おじいちゃん、見ていますか。ほら、今年も綺麗な春がやってきました。満開の桜も、いい香りのする梅の花も、黄色くて可愛いたんぽぽも、色とりどりに咲き誇っていますよ。

”STAY HOME” 自粛期間中に考えたこと (高校1年、3年音楽科)

高校1年音楽科

今年の春、私の高校生活始まりの春には、コロナウイルス感染症の影響で、想像だにしないさまざまなことに制限のある、緊迫した高校生活が待っていた。ニュースでは、コロナウイルスでバタバタ亡くなられていく人の報道もあり、恐怖心や不安は強くなるばかりだった。政府からは緊急事態宣言が発令され、緊張感が漂う中、家で過ごす時間が多くなった私は、この生活をどう有意義に過ごせるかを考えた。3月、4月、6月に予定されていたピアノコンクールは、全てコロナウイルスの影響でなくなってしまった。中学時代、コンクールや本番を軸に生活をしていたと言っても過言ではないほど、ありがたいことにも、本番の機会が多かった私には、コンクールや本番が全てなくなると知った時、自分は何のために、ピアノを練習しているのか、何のための音楽なのか、目標を失ってしまっていたことに気がついた。好きだと思い、好きだから弾いていたピアノ。それがコンクールがなくなった途端にやる気をみるみる失ってしまった。私はそんな自分にショックを受けた。そこで私は、この機会に、音楽と向きあう時間が必要だと思い、自分の音楽への考え方などを今一度初心に戻って考え直す機会にしようと考えた。まずはじめたことは、音楽の鑑賞。外出自粛が広まる中、コンサートに行くことは難しいため、2015年度に開催されたショパン国際ピアノコンクールの4時間ほどある映像をYouTubeでじっくりと聴いた。聴いていると、どうしても音楽をやっているからこそその憧れの感情や、専門的なことを考えてしまうが、今回は観客の一人として、心から演奏を楽しむこと、聴くことを意識した。すると、やはり音楽は素晴らしい、と感じた。賞を取った方の演奏はもちろん、First Stageで惜しくも落ちてしまった方の演奏も、どれも個性が強く、輝いた演奏だった。このコンクールは、ポーランド、イタリア、中国、韓国、カナダ、そして日本と様々な国から、コンテストが集まっていた。音楽は、どれだけ憧れの演奏に近づく努力をしたとしても、自分の生まれた国の生活や文化的な経験などは変えられないということ、いや、変える必要のないそれらがギフトとして個性に表れてくる。世界共通で音楽が楽しまっている理由もここにあるということを実感した。

鑑賞はこのように様々な感動や、学びがあるとはわかっている、どうしても練習をしなくてはいけないという焦燥感にとらわれたり、憧れの気持ちが先走ってしまう。ここまで初心に戻って音楽と向きあえたことは、この時期があったからこそこの体験だった。これから、世界がどう変わっていくのか先が見えない状況で、いかに自分を変えられるか、自分の個性を発見できるか、という事が私にとっての課題であり、目標だったのだ。目標を失っては先に進めない。この時期がなければそ

のままコンクールだけが目標になってしまっていたかもしれない。決してコンクールのためにピアノを弾いているわけではないということ、この春、予想を遥かに越える、音楽と今一度向き合えるいい機会となった。

私にとっての使命とは

高校3年音楽科

私の母は医療従事者です。そのため、休日、ゴールデンウィーク、そんなものなしに日々忙しくしています。時にはご飯を食べ損なう時もあるようで、朝も疾風の如く仕事に行ってしまいます。防護服に身を包み、最善の防備をして検査をすることもあります。そんな母の姿を見て過ごしていた日々ですが、私はあるニュースに大変な衝撃を受けました。それは、医療従事者に対する世の中から差別や偏見があるというものです。あるお母さんは、医療従事者だということで子どもを園に入れさせないで、と預かりを拒否されたり、他にもお店への入店拒否、タクシーの乗車拒否など、医療従事者への誹謗中傷や差別は収まりません。確かに、患者さんに一番近く接し、検査や看護をするということはウイルスにかかるリスクもその分増えます。しかし、そのリスクをも背負い、自分の身を粉にして誰かのために働いている人たちがいることに私たちはもっと感謝すべきなのではないでしょうか。

一方で、アメリカでは医療従事者はヒーローだという考えが広まっていることを知りました。ニューヨークでは夕方7時になると、市民が拍手で医療従事者に感謝の気持ちを伝えるのです。また、「医療従事者の方、ありがとう」と書かれた看板を家の外に飾ったり、ライトアップをしたり、新型コロナウイルスによって殺伐とした世相に、自ら優しい灯りをともしているのです。私は感銘を受けました。ソーシャルディスタンスや、「三密」を避けるため、人は自然に周りの人を敵対視し、バリアをはり、実際の距離だけではなく心の距離をもどんどん離れていってしまっているのが今の世の中だと思います。自分が病気にかかりたくないがために、感謝すべきことを忘れ、むしろ相手を傷つけてしまうような世の中なのだ、悲しい気持ちになりました。

兄弟もいなくて、家にいつもひとりぼっちの私に、少しでも時間があると母はベランダでお話しをしてくれたり、寂しくないようにポジティブな言葉をくれます。どんなに余裕のない忙しい日々でも、母は心の余裕は決してなくさない人です。そんな母を支えたくて、私は苦手な料理に挑戦し、忙しくてご飯を食べる時間のない母にお弁当を用意したり、栄養のある朝ごはんをつくってみたりしています。

どんな時代にも、ひねくれ者はいるし、自分勝手に人を傷つける人もいます。でもその一方で、感謝することは人の心を動かすことができるのだと今回の自粛期間で学びました。私は音楽科ですし、音楽の力で心に余裕の持てない人たちに少しでも余裕を持ってもらうこと、それが使命なのではないかと感じています。

自粛とはただの要請か

高校3年音楽科

この間久しぶりに家を出て近くのスーパーに買い物に行きました。そこで、公立中学校の時に仲の良かった友達に会い、今の学校の現状などを話す機会がありました。友達は同じく私立の高校に通っていますが、北鎌倉のようにipadを全員に支給するという授業のICT化をしていなかったため、オンラインでの授業ができず、課題も届かない状態が2ヶ月も続いていました。彼女も今年受験なのに大丈夫なのかと、とても不安そうでした。もし私も他の高校に進学していたら、今のようなオンライン授業やオンラインレッスン、課題配信ができなくなってしまう。受験生としてはとても不安です。私は、改めてこの学校に入学してよかったと思いました。

私は家にいることが好きなので気が滅入ることはなかなかないのですが、やはりずっと同じメンバーで家にいると、時々ピリピリしてくることもあります。そういう時に外に出て気分を晴らすことができないのが自粛中、辛いと思ったことです。久しぶりの買い物で外に出た時に意外とたくさんの方が散歩をしていたり買い物をしていたりして、みんな考えることは同じだなと思いました。私には不安なことがひとつありました。

「マスクをつけていない人が多い！！」あんなにマスクが大事、不要不急の外出は避けましょう、マスク着用は絶対！となっているはずなのに。小学生や中学生がマスクもせずに家の周りで大人数で遊んでいるのを見ると親は何をしているのか、と思ってしまいました。私は、今回のコロナの自粛をもっと他の国のように徹底的にしたほうがいいのではないかと思います。そして、常識のない大人にもなりたくないと思っていました。

新たな音楽のあり方

高校3年音楽科

私は、このコロナウイルスによる自粛期間で、音楽業界が新たな方法で発展していると感じます。理由は2つあります。

1つめは、今まで何人もの人を要していたセッションが、ひとりでも可能になったということです。今、自分が弾いた演奏をSNSにアップすることが、ちょっとしたブームになっています。その中でも、多重録音機能を用いることにより複数の楽器や音を重ねて、ひとりでたくさんの音を組み合わせた演奏をする人が増えています。そのことにより、自粛期間で人に会えなくても、音楽を楽しみ、それを共有できます。

2つめは、SNSを通してファンを増やす人の増加です。多くの音大生やプロの音楽家が、YouTubeやインスタグラムなどのSNSの他に、新たにライバーになることが増えました。インスタグラムでも、生配信はできます。しかし、同じ生配信でも、ライバーの方がより強固なファン層を増やすことができるのです。そのライブ

配信アプリでは、ライバーを応援することができるうえ、コメントを通してファンとのコミュニケーションがとれるのです。例えば、課金制度を用いてそのライバーにプレゼントスタンプを送信することができます。また、課金せずとも、ライバーが指定したスタンプを送り、自分がそのライバーを応援していることを直接伝えることができます。「蝶のスタンプを送ってくださいね!」とあったら、そのスタンプを送ることにより、自分がそのライバーのファンであることが伝えられます。

このようにして、元からコンサートに足を運んでくれていたファンは、その演奏家とより近くなることができてさらに応援したくなります。また、コンサートに足を運ぶほど興味がなかった人も、その場から一步も動かずにスマホがあれば訪れることのできるライブを見ているうちに、気付いたらファンになっていた、ということが起こりうるのです。

以上の理由から、新たな音楽の可能性を見出すことができます。今、人に会えないからこそ、SNSを通して人との関わりを持ちたいという人がたくさんいます。これをチャンスと捉え、今後の生活をよりよくする期間としたいものです。

自粛期間の私の支え

高校3年音楽科

私が3ヶ月ほどの自粛生活で気づいたこと、それは「辛い時は空想が支えてくれる」ということだ。自粛生活の最初は「きっとすぐに外に出られるようになるだろう」と思っていた。しかし、新型コロナウイルスは日に日に勢力を増し、自粛生活は長引いていった。そんな中、私は空想旅行へ出発することが多くなった。イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、スペイン、ポルトガル・・・

今は行くことができないけれど、現地の美しい写真や動画を見て、どこを巡りたいか、どのホテルに泊まってみたいかなどを考えてみるのはワクワクする。「自由」に空想できることによってストレスもある程度解消される。外に出られないからこそ想像を膨らませ、他国の美しい景色や興味深い文化に触れたいのだ。

・・・空想は現実での生活に支障が出ない程度に抑えているつもりだが、現実をしっかりと見つめられる人には「現実から逃げるなんてよくないことだ」と思われても仕方ないかもしれない。しかし、私にとってはこれが自粛期間中の何よりも心の支えになり、「Stay Positive」を助けてくれている。それに、考えることまで制限されてしまうのはかなり辛い。それはきっと誰だって同じだ。だから、私はこの空想で得た好奇心を活かせるようにした。「他国は新型コロナウイルスに対してどのような政策を打っているのだろう」「新型コロナウイルス対策において、日本が他国を見習うべき点はどこだろう」と、現実世界の新型コロナウイルスに対する問題意識へと繋げたのだ。まさか自分の空想から日本や他国の問題に目がいくようになるとは思わなかった。このように、私の自粛生活は空想が支えてくれることによって成り立っている。辛い時は空想の力を適度に借りて楽しく明るい自粛生活を過ごしたい。

非常事態における音楽の意義（高校2年音楽科）

高校2年音楽科

今、世界中で音楽家の活動が制限されてしまっていますが、私はその音楽を専門としているからこそ出来る事は沢山あるように感じます。私が思うその代表例としては精神的な安らぎなどを与える事が出来る事です。他の芸術も、精神的に安らぎなどを与えてくれると思いますが、ずっと安らぎを与えてくれるとかいえばそれは違うと思います。このような緊急事態において体調も含めて精神的に病んでしまった際に、音楽はそれを忘れさせてくれるように思います。そのような所に音楽の意義があると思います。例えば、何もない時でも好きな音楽家、アーティストの音楽を聴くと元気が出る、楽しくなる、やる気が起きるなどあると思います。そう考えると何も無い時でもそのような効果が生まれるのならばこの緊急事態の時はなおさら効果があると思います。そして、このような時の音楽の意義をもう少しあげるとするならば、配信する事が出来るという事です。今はとても便利な時代です。それを大いに活用して届ける、又はリアルタイムで届ける事が出来るのは音楽だと私は思います。現に、J-popアーティストの星野源さんは自分の作った曲を風刺的にポップに歌ってネットにあげています。音楽はこのような時でも途絶える事なく、新しい物が生み出せます。他にも、有名な楽団の方々などは、演奏したものをネットで配信しています。そして音楽は人が作り、人によって広まる物なので、音楽家だろうと1人の人として私達と同じ環境下にあるのです。同じ境遇だからこそ作れる音楽で暗くなっている心を明るくする事が出来ます。音楽は途絶える事がないので、聞き続ける事もでき、口ずさんでみる事ができて、自分が行い楽しめる事ができます。やはりどの例を出してもこの緊急事態の時の音楽の意義はずっと1人1人の心に寄り添ってくれるという所に尽きます。

高校2年音楽科

音楽には、誰かを笑顔にしたり、誰かを元気にし勇気づける事ができる。現在、新型コロナウイルスの影響が音楽家だけではなく様々な人に困難を与えている中、誰もが学校や仕事などの問題で不安に思っているだろう。音楽家にとっても本当なら、今日コンサートがあって沢山のひとと音楽を楽しんでお客さんに笑顔になってもらうはずだったのに...。と、思うだろう。しかし街にも人を全然見かけなくなった状況の中、飲食店などのお店を今まで通り営業したり、コンサートをしようと思ってもそもそもお客は来るのか。営業したとしても密接して、より感染者を増やしてしまう危険になるのではないか。こんな状態になってしまった以上はどうしようもできない。だが、ポジティブに考えてこのウイルスによる影響を抱えているのは一人ではない。自宅でできる事もたくさんある。例えば、普段忙しくて他のことに手が回らなくなっていた事をしたり、ウイルスが終息した後のコンサートはどうしたらもっと喜んで笑顔になってもらえるか。そんな事を自分なりに考え研究する良い機会だと私は思う。なぜなら、困った状況の中から明るく笑顔を届けるのが音楽家のひとつの仕事内容であるから。

今、スポーツ選手が自宅でできるストレッチ法をSNSを通じ全国のスポーツをしている人達に向けて、少しでも協力できるものがないかと動いてくれているのを知った。では音楽の必要性とは?音楽はどのような存在なのか。ただ演奏をしてお客さんを笑顔にするだけでなく、こんな非常事態の時だからこそ自宅で素敵な音楽を聴けるようにするのも努めて、音楽、音楽家はこういう時にためにも存在しなければならない。世の中に必要だと私は思う。

そもそもどうして音楽というものが生まれたのか。私の考えとしては、今生きている人は誰も知らない大昔に何か音の出る物に出会った人がいて、たまたまその音の出るものに触れて音を出したり、その物から出る音に興味を抱いたりした事がきっかけで周りの人から世に広まり、もっと様々な音に触れて何か今後音というものを演奏に繋げられるのではないかと自分で演奏をしてみたい!と感情が出た人は音楽を演奏する音楽家となり、もっと色々な音を出して音に関して色々な発見をしたい、もっとこんな楽器でこんな音を出せるような楽器を作りたい、自分が演奏するよりも音に興味がある!と楽器に興味を持った人が、自分ではない誰かが演奏するのに良い演奏をしてもらう為の音楽家になっているのだと思う。

つまり私の中で音楽家は2パターンあるのだ。どちらの音楽家も、音に出会った時に面白いと興味が湧いたから他の人と共有し、自分もこの先触れていきたいと思うのだろう。そうして、時代とともにどんどん知識も進化して今に繋がっている。もしその音に出会う前にとっても辛い事があっても、もしかしたらその音に出会ったことで何かが変わるかもしれない。実際音楽に出会って救われたという話も聞いたことがある。音と音が重なり合う事で良い和音なども生む事ができる。私たち人間も音と音が重なり合うように誰かが誰かのためにも頑張れるように。音というのは、人の心をそのように素晴らしく変えようとしてくれる。聴くと気分が上がる、また聴きたいと思うのも音楽の力だ。こんな非常事態の状況でもこのように考えると人を救う力があるのだと思う。もちろん今『音楽家という人がいるからこそ』。

高校2年音楽科

連日“新型コロナウイルス”に関する報道が後を絶ちません。政府の要請により多くのコンサートや音楽イベントが中止となっています。人々の密集を防止するためには致し方ないことですが、演奏家にとっては大きな痛手となり、収入は限りなくゼロに近づきます。一方で、生活必需品を取り扱うスーパーマーケットなどの営業は続けられている現状において、音楽は果たして、生活を営む上で必要不可欠な存在であるのか?という疑問が生じます。これについては、100人いれば100通りの答えがあると思いますが、私は非常事態に直面している今こそ、音楽は大きな役割を担うと考えます。

第一に、音楽は心身の健康の維持に効果的です。泣きたいほど辛いとき、優しいメロディを聴いていたら、いつの間にか涙が消えていた、という経験は誰もがもちでしょう。こうした音楽の特性を活かしたものに音楽療法があります。これは音楽を聴くことや楽器を演奏することにより、身体の運動機能を向上させるほか、精神状態を安定させる効果が期待できるリハビリテーションの一種です。たとえ意思疎通が難しい場合であっても、音楽を介したコミュニケーションが治療の手助けとなります。

第二に、音楽は言語としての機能を備えています。音符を用いて記される楽音は、連続することにより旋律を生み出します。そして旋律は楽曲を構成し、楽曲は楽譜として出版されます。このように、音楽は諸言語と同様のプロセスを経て、現在まで受け継がれています。世界には多くの言語が存在していますが、お互いの言語を理解できなければ、会話は成立しません。そのような状況下において、音楽に込められたメッセージは、異言語発話者との理解を可能にします。

これらの理由から、“新型コロナウイルス”に打ち勝つため、音楽が各国の架け橋となり、地球人として皆が協力することに意義があると確信しています。

高校2年音楽科

私は、音楽があり良かったと改めて思いました。最近、新型コロナウイルスの影響でさまざまなサービスが始まっています。例えば、ベルリンフィルハーモニー交響楽団がアプリを通じてホールで演奏会を開催した様子を無料で全て視聴できるサービス、zoomを使って東京フィルハーモニー交響楽団が「パプリカ」をオンラインで演奏したものをYouTubeで共有するサービス、ラジオで中止になってしまったライブを再現するサービスなどさまざまな方法で、アーティストが私たちに音楽を届けてくれています。また、手洗いをしっかりしようとする有名なアーティストが手洗いの歌を作る活動や、家に居ようと思わせてくれる歌を作る活動をしています。私は、これを見たときとても感動しました。最近まで「外出自粛要請が出ているにもかかわらず、街に安易に出かけている若者がいる」というニュースが注目されていました。しかし、今はさほど注目されていません。アーティストやYouTuberが呼びかけたおかげだと思います。これらのことを踏まえると、世界に注意喚起出来る音楽は、とても貴重な存在だと思います。今後も外出自粛要請が続くと思うので、さまざまな方法で音楽を取り入れて、乗り切れればと思います。

昨夜、何年か前に作成されたウイルスに関する映画を観ました。題名は「コンテイジョン」です。この映画は、まだ発見されていない未知のウイルスに関する映画です。ワクチンが無い中、外出自粛をしない人々が多く、感染者が拡大していくお話です。この映画を観ることで、外出を控えることはもちろん、手洗いうがい、衛生面さまざまなことを今以上に気をつけなければならないことを、思い知らされました。世界中でウイルスが広まっている中、なにが正解なのかわかりません。今できることに最善を尽くすことが何より大事だと思います。音楽は、私たちを家に居させてくれる物だと思っています。これからもたくさん音楽を聴きたいと思っています。

高校2年音楽科

現在の日本は新型コロナウイルスの影響で、感染者が増加しています。その影響で、政府が発出した自粛要請により、イベント業界・主要航空会社など、経済に大きな損害をもたらしています。音楽業界においてもコンサートが中止・延期の危機感を募らせています。音楽企業の収入はCDが売れない現代ではライブやコンサートで成り立っています。しかし、新型コロナウイルスによって、ライブやコンサートを開催することが困難になりました。フリーランスが多いこの業界では影響が非常に多く、損害が数千万円以上に及びます。

このような状況により、音楽家の活動の場がなくなりました。されど音楽家が立ち止まることは、文化の行く末を放棄していると考えられます。一方で、躍進的な音楽家はyoutubeなどの動画配信媒体を活用する試みがあります。それはファンからのリクエストがあった楽曲をライブ配信で弾く活動です。最近のライブ配信はチャット機能があり、音楽家とファンが直接会話することが可能です。また、スーパーチャットという投げ銭機能により音楽家に対して収益が上がる仕組みがあります。また、自動翻訳機能を使うことで言葉の壁を取り払うことも出来ます。これにより、音楽家がライブやコンサートの場を使わずとも動画配信媒体を活用することで、収益をあげることが出来ます。例としてyoutubeで配信された、新日本フィル「テレワークでパブリカやってみた!～最終回～」では74万再生と3.7万人の「いいね」を貰い、大きな注目を浴びています。コメント欄には「感動しました」など数多くのコメントが寄せられました。

「ピンチはチャンス」という言葉がありますが、今はまさにその時です。コロナウイルスによって新しい音楽活動の場が増えていくことが考えられます。

私たちが今回コロナに立ち向かうとして、SDGsの何番が効果があると思いますか？（中学1年：4月20日課題）

中学1年

3番 「すべての人に健康と福祉を」です。

外に出ないと運動などができないとか、買い物にも行けないから食事のパターンが少なくなるなどの理由で、外に出る人がいると思うからです。いろんな人に、例えば家で運動ができるものとか資金じゃなくしているいろんな食材を配るとか、家にいても健康でいられるようになったらいいと思います。

中学1年

11番「住み続けられる町づくりを」です。

今このような状況になってしまい、あまり人と人が接触してはいけなかったり、色々なことが制限されています。制限に従いたくても、食料や水を毎日外に出てとりにいかないと暮らしていけなかったり、なかなか正しい情報を得ることができなかったりして、感染が拡大してしまっていることがあるからです。今だからこそ、私たちがそのようなところで生活している人たちにきれいな水をあげたり、正しい情報を伝えてあげたりして、すみやすい町を作っていくべきだと思って、11番を選びました。

中学1年

3番「すべての人に健康と福祉を」

4番「質の高い教育をみんなに」

9番「産業と技術革新の基盤をつくろう」が効果があると思います。

理由は、健康を保つと免疫力が上がり、コロナのような病気にかかりにくくなると思ったからです。

次に、教育の質を高める事により、人々の意識を高めると同時にコロナに効く薬を作ったり、今のようなウイルスで困る状況が長引かないようにできるからだと思います。

そして、医療用器具や、防護用品を迅速に作り出し、品薄状態を作らず、すこしでもはやく人々に日常が戻るようになると良いと思ったからです。

コロナ禍により問い直されるグローバル資本主義と民主主義について(高校3年：4月16日課題)

高校3年

グローバル資本主義に関して他国にばかり頼ってしまいがちだった面がこの新型コロナウイルスにより分かりました。例として挙げられている中国はウイルスの発生した地として非難されていますが、各国が頼ってきた大きな力で中国が打撃を受けると同時に関わってきた多くの国が同じように打撃を受け、日本も経済を自分たちの力で成長させていくことが必要なのではないかと感じました。

民主主義に関して「対応が遅い」と政府を非難する一方で現在のウイルス感染者が増加すると「早く対策を」と指示を求めています。ですが「自分は大丈夫」と出歩く人が多い中矛盾していることが分かります。インターネット社会の現在、一人ひとりの行動、判断が団結を後押ししていくと思いました。例として動画で注意を楽しく呼びかけたり、家での生活を楽しくするダンスや歌の提供などです。自分で判断できる力が問われていると思いました。

高校3年

グローバル資本主義に関しては、他国と協力して自国の経済を成り立たせようとする事は、互いに利益を得ることができるので良いと思う。しかし現在のようになら、頼っていた国で何か事件が起こると、自国の経済は一気に下がってしまう。こうなってしまうのであれば、緊急事態時にある程度賄えるようにし、他国が困っているのであれば、助けてあげられるくらいの姿勢でいけば、その国との関係も深まって良い方向へ進めると思う。

また、現在の国民は政府に頼って動いていると思う。新型コロナウイルスで例を挙げると、ある程度の店が自粛をして休業したとしても、外へ出たい人はわざわざ空いている店まで行く。政府が不要不急の外出を禁止したり、緊急事態宣言を出さなければ外出をやめる人はあまり多くないと感じた。そして政府が何かを発すると不満になる。このような現状を引き起こしているのは国民なので、もっと危機感を持って行動しなければ、民主主義とはいえないと思う。

高校3年

グローバル資本主義や民主主義が進むにつれて様々なものや情報が飛び交うようになり、私たちの生活が豊かになってきたという面もあります。しかし、世界とのつながりが強くなってきたからこそ見えてくる問題もあると考えます。

コロナウイルスによって引き起こされたパンデミックですが、ここまで蔓延したのにはこのグローバル資本主義やデモクラシーが原因となっているところもあると思います。中国でコロナウイルスが発生して世界に広まった背景にはグローバル資本主義による海外に生産を委ねていることがあると考えます。輸入や輸出によってウイルスは移動し、感染後には経済を止めてしまうのです。またデモクラシーは報

道などの例でもわかるように不安を掻き立てパニックを助長しているようにも見る
ことができます。このようにしてパンデミックが起こると各国は自国を守るために
孤立しだし、自分を守るために他者を批判します。このようなことが続くと今のグ
ローバル資本主義やデモクラシーは崩壊してしまいます。

そのため私は世界規模での問題なのであれば、世界規模で協力し、人々が正しい
知識を持って行動することでないと迅速な解決は難しいと考えます。グローバル資
本主義やデモクラシーが浸透してきて長い年月が過ぎています。そして功績だけ
でなく、様々な問題が露呈して来ています。今こそグローバル資本主義やデモクラ
シーについて考え、変化させていくべきなのだと考えます。

高校3年

岡本裕一朗著書の『今世界の哲学者が考えていること』を参考にする。
まず、改めてグローバリゼーションに立ち戻ると、そこには極めて深刻な「パラ
ドックス」が潜んでおり、その理解なくして未来世界を展望できないと筆者は語
る。トルコ出身の経済学者であるダニ・ロドリックが2011年に出版した『グローバ
リゼーション・パラドックス』には、私たちは三つの道(「トリレンマ」)の中から
選択しなくてはならない状況下に置かれているようだ。その三つの道の一つ目は、
「もしハイパーグローバリゼーションと民主主義を望むなら、国民国家は諦めなけ
ればならない。」二つ目は、「もし国民国家を維持しつつハイパーグローバリゼー
ションも望むなら、民主主義のことは忘れなければならない。」そして三つ目は、
「もし民主主義と国民国家の結合を望むなら、グローバリゼーションの深化にはさ
よならだ。」である。しかし問題なのは、この三つの選択肢(トリレンマ)からどれ
を選ぶかということである。因みにロドリックは三つ目を選択し、その政策を「賢
いグローバリゼーション」と呼んでいる。

岡本裕一郎の意見では、「民主主義と国家主権をハイパーグローバリゼーション
よりも優先すべきだと思う。」と述べています。なぜならば、民主主義は各国の社
会のあり方を守るための権利を持っており、グローバリゼーションの実現のために
この権利を放棄しなければならないのであれば、後者を諦めるべきだからである。
つまり、現在の我々には最大限のグローバリゼーションではなく、賢いグローバリ
ゼーションを必要としている状況下に置かれているわけである。しかし、この「賢
いグローバリゼーション」はいかにして可能なのか、改めて検討する必要があると
筆者は語る。

以上のことを踏まえて、政治経済に特別な知識を持ち合わせていない私の意見
も、三つ目の「もし民主主義と国民国家の結合を望むのなら、グローバリゼーシ
ョンの深化にはさよならだ。」を推薦する。

高校3年

グローバル化によって私たちの生活は豊かになり、便利にもなっていると思いま
す。沢山のプラスな事があると思います。一方で、記事に掲載されていたように各

国が中国ばかりを頼り、経済成長をさせた事によってこのような事態になったともいえるなと思いました。なんでもかんでもグローバル化すれば良いという事ではないと思いました。また他の国を頼りすぎるのも良くないと思いました。頼りすぎる事によって経済が成長しない可能性もあります。他の国を頼りグローバル化するのではなく、世界で協力をし合っていくべきだと思います。日本をより成長させる事ができるのは日本自身だと思います。日本でできることはしていき、グローバル化した方が良いものはする。これを見分けていく事がより私たちの生活は豊かに、便利になっていくと思います。

民主主義によって主権が私たちになっている事は良いことだと思います。民主主義の現在であるならばコロナウイルスの対策に対してもっと国民が自ら行動するべきだと思います。政府が批判されていることが多いですが国民は政府が対策を出してから行動しているのが現状だと思います。これは民主主義であるのか疑問に思います。記事にもあったように私たちは何が出来るのかを考え行動する事が大切だと思います。各自がもっと今の状況に対して危機感を持ち、小さい事からでも何かやっていくべきだと思います。小さな積み重ねによって大きなことへと繋がっていくと思います。私も自分にできる事を精一杯やってこれを乗り越えていきたいです。

高校3年

最近よくテレビで非常事態宣言が遅すぎた、こうするべきだった、などと政府の対応を議論していますが、私は国民が抱える不安を政府への不満に転じさせるような報道はあまり良くないのではないかと思います。どんなに正しいことを言っても、このご時世に見ていて感情がマイナスの方向に向かうような議論を全国放映して利益があると思えないからです。ここで私が言っているのは、正しい知識や注意喚起の報道ではなく、怒鳴るような口調で批判をぶつけ合うような議論を展開する番組です。ただでさえ不安な国民に攻撃的な人達の議論を見せて何が起こるのかは明らかだと思います。デマだらけの海外と日本の対応の比較表がTwitterでバズったり、お魚券、お肉券などと皮肉が飛び交ったのもテレビで専門家が批判したのを誰かが断片的にSNSに書き込んで誇張されていった結果です。マスコミのモラルのない報道、それに踊らされSNSでむやみにマイナス感情を吐き出す人々、それを利用してバズりを狙ったデマを流す人、そのデマを信じて買いためする人の負の連鎖。国民が政府に依存し、問題の解決を委ね、できなければ政府の責任を問うているという田原さんの意見は的を射ていて、すっとんと納得出来ました。国民が自分達を守ろうとする政府を叩き、呼びかけに従わなかった結果感染者を増やしてそれさえも政府のせいにしてしている現状を見れば民主主義が限界を迎えているのも納得です。民主主義は国民が思考を止めれば正常に機能しません。その解決策として、市民一人一人の意識を高める、思考させるという意味で、市民の権限強化が有効なのだと思います。

グローバル資本主義に関しては元々知識不足だったので自分で調べてみた結果、コロナの前から貨幣操作によって危機を先送りしていたということを知りました。インフレで一時的なバランス調整をし続けなければいつかは限界がきてしまうのは分かります。

高校3年

田原総一郎さんの論説に引用されていた、朝日新聞掲載の佐伯啓思氏の指摘に強く納得させられた。経済のグローバル化が進んだことによって、私たちの生活は豊かになり便利になった。しかし、グローバル経済の中心である中国が世界の工場となり、自国を発展させるために各国が中国頼みにしてしまったことで、今回問題になっている中国発の新型コロナウイルスが世界中に感染拡大してしまった、とのことだ。そのことがよく分かる例を出すならば「マスク」だと思う。現在世界最大のマスク生産力を持つといわれている中国。日本政府の中国頼みだったマスク政策には反省の余地があるとも言われている。実際に自分たちの身の回りでも、メイドインチャイナと記載されている商品はたくさんあると思う。モノひとつとらなくても部品で使われていることだってある。これまで「輸入依存」は何度も問題視されてきた。グローバル資本主義によって世界のヒト・モノ・カネが国境を超え、世界市場で活躍することが簡単になってきた現代だからこそその問題だと思う。マスクの他にも影響を受けている食品があるともニュースで見たことがある。以前から輸入依存は議論に挙げられる1つの問題であったが、マスクと同様、コロナ騒動によりそれが浮き彫りになったのだと思う。

そして今日本では、国の打ち出す政策に批判的な声が多い。納得できない部分があることも理解はできるし、それを声に出すことが一方的に悪いとは思わないが、今の政党を選んだのは私たちであるとも言える。日本は国民が主権を持つ民主主義国家だ。私たちの意見を反映してくれる代表者を選ぶ権利があるにも関わらず、近年選挙に行く人は減少している。選挙に行かなかった人が国の政策に文句を言うことにも疑問を感じた。しかし「選挙に行こう」とは言っても勿論闇雲に票を入れればいいわけではない。じっくり考えた上で票を入れることが重要である。だからこそ特に私たちのような若者が、政治に関心を持つことが大切だと感じた。そうでなければ民主主義の根幹は今後、より揺らぐと思う。日本は他国に比べて政治への興味関心が少ないと聞いたことがある。自分が選挙権を持った18歳の今、選挙に行くことの重要性と自身の勉強不足を痛感している。

高校3年

グローバル資本主義の国では、自国よりも低賃金の場所で生産することなどで、経済を大きく発展させてきました。しかし、私は、グローバル資本主義には大きく2つの課題があるように思いました。まず、1つ目に自給自足ができなくなり、国内の産業が衰えてしまうということです。今回の新型コロナウイルスでも、医療物資が不足して困っていますが、食料などは今のところ不足していません。しかし、さら

に深刻な事が世界中で起きた場合、輸入が完全に出来なくなってしまうこともありうるのではないのでしょうか。もしそうなれば、今の日本の自給率では食料が手に入らないという事が起こってしまいます。また2つ目に、グローバル資本主義による対立でいざという時に、協力し合えないという事が起こりうるということです。中国など、1つの国に様々な国が集まってしまった場合、それを巡って国同士で争いが起こる可能性があります。国同士での争いの最中に、今回のような事態が起き、国同士で協力し合えないと、せっかく他国と繋がっていても意味が無くなってしまいます。もし、このようなグローバル資本主義の課題を解決できれば、田原総一郎さんが言った様に今後今回よりも酷い危機が訪れたときでもそれに勝利できるのではないかと思います。

民主主義によって身分の差別は少なくなってきました。私たち日本人が現在平和に暮らしているのはこの民主主義の結果です。今回のコロナウイルスでは、3月2日に国が緊急で全国の休校要請を出しました。その時に私は、全国の約98%の学校が休校になったというニュースを見ました。あくまでも'要請'だったのですが、ほとんどがそれに従ったという事なのです。日本は民主主義なので、地域ごとに判断できたはずですが、しかし、まだ感染が出ていない県や、生徒数が少なく対策を取れば行えた学校もあったはずなのにほとんどが休校になったのです。私は、ここに民主主義の限界がある様に思いました。それは、民主主義は、個人個人がしっかり考え、理性的に判断でき、ユヴァル・ノア・ハラリさんの『自分で可能な限り対応するという意識』を持たなければ、成り立たないということです。今回の休校要請で、もし全員が真剣に考えていれば、子供の学ぶ機会が守れたかもしれないとは思いました。これは国民個人にある課題であり、解決するのはとても困難な事です。しかし、これを解決しない限り本当の民主主義にはならないと思います。

高校3年

グローバル資本主義は、世界規模であるために限界がある。例えば日本で売っている製品の一部の部品が外国製であることがある。そうすると今回のような新型コロナウイルスの感染拡大によって製品が国民の手に届かなくなる。私の家でも一月に頼んでいた工事が三月まで延期になった。理由は機器の一部の部品が中国製だったからだ。だがグローバル資本主義だから良いこともある。例えば安い賃金で部品が手に入ることがある。中国の賃金が日本より安いので、日本で製品を製造するよりも中国で製造した方が日本の利益は上がる。これらから私はグローバル資本主義はリスクが大きいと考えた。新型コロナウイルスの感染が拡大している今の経済は著しく落ち込んでいる。世界規模で経済が落ち込むと世界中の人々の生活が苦しくなる。だからと言って世界規模でなくなると一つの国で経済が落ち込んだとき回復できなくなると思う。よってグローバルであるべきかどうかは今の世界の状況で見極める必要があると考えた。

新型コロナウイルスの感染拡大に対して日本は民主主義的な対策を行っている。具体的には外出自粛要請だ。この対策から日本政府は国民一人一人が感染対策を自主的にとることを期待しているとわかる。しかし民主主義だけを通ると今回のような危機を乗り越えられない。現に日本では外出を要請しても出歩く人がいるからだ。外国では外出を禁止していることから国が力を持っていることがわかる。しかし、外国のように国民が国に逆らえないようになると軍事政権や独裁社会に成りかねない。そうすると国民の豊かさや便利さが閉ざされてしまう。日本と外国を比べてどちらか一方のみをしても効果は薄いことが分かった。そこで民主主義は拡大しつつグローバル資本主義を取り入れ各国で助け合いながらこの事態を乗り越えるのがいいと思う。良い対策を行っている国があるのならその対策を世界に広げていけばこの問題は解決するはずだ。よって現在はグローバル資本主義を必要としている。

高校3年

グローバル資本主義は国を豊かにし、支えています。その便利さゆえに頼りすぎてこれが少しでも揺らぐものなら絶妙なバランスを保っていた経済体制は一気にぐらっと崩れていき、立て直すのには時間がかかります。つまりグローバル資本主義は大きな豊かさを生む一方、なくなったときの代償も大きいという危険性があります。田原総一郎氏の論説の中で紹介されたハリリ氏の論文で「世界は、国家主義的な独立か世界の結末かの選択に直面している。前者を選べば、危機は長期化し、後者を選べば、今後のあらゆる困難にも勝利ができる」と論じています。しかし、グローバル資本主義に頼りっぱなしの世界経済は、自国のバランスを立て直すのに手一杯で各国との協力どころか他国を批判することで少しでも自国を優位に立たせ、早期回復を目指すことしか考えられないんじゃないかと思いました。たしかに後者を選べば世界は良い方向へと向かっていくのだろうけど、それが出来たらこんなことになっていないだろうなと思います。

また民主主義の拡大ですが、そもそも日本は民主主義なのではないでしょうか。民主主義とは人民が主権を持ち行使する政治のことですが、日本人には自己判断で動くという意識がないように思えます。これは日本人特有の周りに合わせるという国民性からもうかがえますが、最もそうさせている要因はテレビをはじめとするメディアだと思います。責任逃れするために問題解決は政府に委ね、できなかつたら非難するというなんとも無責任な行動をとるため、国民は自己責任の行動を避け、社会の判断が自己の判断になり、その責任は一切とらなくなったんだと思います。これは、民主主義と言いながら実はまったく別の政治体制なのではないかと思いました。だから、全体の利益を第一とする全体主義的な監視が生まれたんだと思います。

コロナによって見えてきたグローバル資本主義と民主主義の拡大の限界は世界や日本がずっと目を背けていた重要な問題であり、これを機にグローバル資本主

義の危険性と日本の民主主義について一度じっくり考えてみるべきではないかと思
います。

高校3年

まず1点目のグローバル資本主義についてですが、私はやはり人類の発展にとっ
て必要なことだと思います。確かに今回のパンデミックを引き起こした原因はグ
ローバリズムにあります。何事にもメリットとデメリットは存在します。ヒト・
モノ・カネが国境を越えて行き来することで得られる豊かさや便利さがメリットで
あるとすれば、ヒト・モノ・カネと一緒によくない何かの世界に広がりやすいこと
はデメリットです。今回私たちは、今までメリットが注目されてきたグローバリズ
ムの負の面に出会ったに過ぎません。仮に今コロナウイルスというものが蔓延して
いなくても、遅かれ早かれいずれはこのような事態に直面していたと思います。グ
ローバル資本主義の今、各国が国境を越えて色々なものを共有したことで、または
それを認めたことで、国という大きな括りの外にもっと大きな輪ができたことにな
ります。運命共同体ではありませんが、今こそグローバルな協力、支援、励まし合
いが何よりも大事だと思います。

次に2点目のデモクラシーの拡大についてですが、今回の新型コロナウイルスの
蔓延で、この国の行き過ぎたデモクラシーの弱さを痛感しました。もちろん、それ
が日本の魅力の一つであるとは思いますが、今回はそれが裏目に出てしまったよう
に思います。この記事を読んで最初に思い浮かんだのは、マスクの品切れについて
でした。マスクが供給不足に陥った時、情報番組はまず政府に対策案を求めまし
た。すると政府は情報番組からの催促と批判を受けながら協議に協議を重ね、対策
案をまとめます。政府が慎重に慎重に協議しているうちに、政府の対応スピードに
危機感を覚えた一般企業がマスク作りを始め、さらに自宅でマスクを手作りする人
も出てきました。そしてなんとかマスク不足のピークを乗り切った頃、やっと政府
がひと家庭につき二枚、マスクを配ると発表しました。その対応が本当に必要だっ
たのは1ヶ月前です。情報番組が批判交じりに政府の対応を催促すると、報道陣に
囲まれた政府関係者が、後で揚げ足を取られないように細心の注意を払って進展を
報告します。無難な表現を選んだことにより返答が曖昧になり、それを情報番組が
「説明不足だ」とまた批判します。デモクラシーが政府を慎重にさせ、その政府の
対応を「スピード感がない」とデモクラシーが批判する。そんな馳ぎっこをしてい
るうちに、日本は世界の対応に遅れをとっています。しかし日本は、このような緊
急事態の場合、政府の対応スピードにはあまり期待できないかもしれませんが、追
い詰められた企業が捻り出す知恵には大いに期待できると思います。私のような学
生にどのくらいのことができるのかは分かりませんが、デモクラシーの日本だから
こそ、政府には財政面での対応に専念してもらい、他のことは国民で分担し、なん
とかこの国難を乗り切れたらいいなと思います。

「コロナ後」の日本の「インバウンド政策」について (高校2年3年：4月20日、30日課題)

高校3年

世界の移動が止まったことで、今日本は生産力を他国に頼ることのリスクを思い知らされています。コスト削減だけを追求して他国に工場を置くのではなく、日本国内の工場を増やして国自体の生産力を上げよう、日本の農業を支えようという動きがコロナ後に見られるだろうなと思いました。しかしその前に、日本には延期した東京オリンピックというビッグイベントがあります。私はオリンピックに期待して、コロナが収束した後の日本の観光業の回復は早いのではないかと考えています。政府の財政自体もオリンピックを踏まえたインバウンド政策で上手く回復させられたら理想的なので、オリンピックの成功を祈ります。また今回テレワークが思わぬ早さで普及したこともあり、オリンピック開催にあたって心配されていた公共交通機関の混雑を避けられるのではないかとと思いました。

高校3年

3月の訪日外国人旅行者数は、前年同月比93%減の19万3,700人となりました。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、海外からの入国制限を強化したのが要因です。減少は6カ月連続で、減少幅は東日本大震災の翌月、2011年4月の62.5%減を上回りました。また国際線の航空便が激減し、訪日客が東京・大阪や観光地からいなくなった現状、「コロナ騒動が収まって、訪日客は本当に戻ってくるのか」という懸念が観光産業に携わる人の間に広がっています。ですが、このような状況でも日本は中国人向け調査でコロナ後「行きたい国」1位に選ばれたそうです。その中でも北海道がより関心を持たれています。北海道は早期にウイルス拡散の抑制策を打ち出し、成果を上げていることが中国でニュースになっていたことも影響したようです。ネガティブな情報もたくさんありますが中国からの訪日客に関しては、コロナ後を心配しなくてもいい部分も少しはありそうです。

高校3年

今回のコロナウイルスによって様々な日本の弱点が浮き彫りになってきました。まず一つ目としてインバウンド需要への依存です。日本においてインバウンド需要の多くを占めているのは中国や韓国などから来る観光客によるもので、今回の新型コロナウイルス発生当初には多くの中国人が日本に来ていました。この頃はまだ日本では感染者も多くなかったため、日本人の新型コロナウイルスに対する危機感はなく、他人事のように感じていた部分もあったように感じます。しかし、来日した中国人の中にはマスクをしていない人もいました。政府もインバウンド需要の多くを占めている中国からの観光客に対しては経済への影響もあると考えたのか、入国制限が行われた時期が少し遅かったように感じます。これも日本のインバウンド需要への依存が問題となっている理由の一つだと私は考えます。

二つ目としては日本の産業の空洞化です。日本は今産業のほとんどを海外に頼っています。だから、このように輸入ができなくなってしまっている今では、マスクのように手に入れることができないものが増えてしまいます。この産業の空洞化を解決するためには、単純に世界に散らばっている工場を日本に戻せば良い、というそんなに単純な話ではないと私は考えます。日本で大きな工場を建てるとするのであれば、なるべく土地代の安い過疎地になると思います。しかし、過疎地には従業員が移動するための交通の便が良くなかったり、在宅勤務や機械を動かすためのネットの環境が良くないなどの問題点があると思います。この問題点を根本から解決するには膨大な時間と費用がかかります。しかし、デメリットではありません。時間やお金はかかりますが、地方の活性化につながり数年後に数倍の利益となってかえってくると考えます。そして、地方にまでネットの環境を整えば、在宅勤務も楽になり、業務の効率化にもつながると考えます。私は企業に会社員として働くというのではなく、会社員で在宅勤務でも仕事をしているというようになるという柔軟な労働形態が今後の「働き方改革」の柱になれば良いと思います。

私は今回の新型コロナウイルスによって浮き彫りとなった日本のインバウンド需要への依存や、産業の空洞化が引き起こした経済への打撃は、外国頼みの政策や労働形態の転換点として捉えていく必要があると思います。

高校3年

今回の新型コロナウイルスでは、多くの生産者が大きな打撃を受けました。その一例として農業をあげます。先日、ある新聞に、新型コロナウイルスが農業を直撃したという内容の記事が載せられていました。その記事によると、メロンやイチゴなどの果物や和牛など高級なものの価格が大きく下がっているという事でした。また、このような状態が長く続いてしまうと、潰れてしまうとも書かれていました。

私は、この記事を読んで、これからインバウンド政策について真剣に考えないといけないと思いました。なぜなら、news weekの記事が示すように、他国との関係悪化や疫病などで海外から人が来なくなる事が、今後もありうると思ったからです。今回のように、国内消費が減ると生産者さんが潰れてしまいます。そして、更に国内消費が減ります。そんな中で、前記のような事が起こると、また生産者さんが、というように、今後何も変えないと、この悪循環が生まれるかもしれません。そして、悪循環によって私たちの生活が苦しくなっていくかもしれないのです。

ここで私は、税金の使い方をしっかりとすると良いのではないかと考えました。税金を有効に使って、保証がしっかりしていれば潰れる企業も減り、家計に余裕ができて国内消費が増え、良い循環ができるのではないかと考えたからです。税金がしっかりといかされている事が感じられれば、国民も増税しても不満に思わないと思います。現に、スウェーデンでは高い税ですが、それがいかされていると実感しているので、不満に思っている人は少ないそうです。

コロナウイルスによって、インバウンド政策の弱点を知ることができました。今後、その経験がいきで、これからもっと暮らしやすい日本になれば良いと思います。

高校2年

新型コロナウイルス感染症の影響で全世界的に旅行控えが起き、人の動きが抑制されたため、2020年2月の訪日外国人旅行者数は、対前年同月比でマイナス58.3%の108.5万人となった。日本への渡航自粛の要請から訪日旅行のキャンセルが相次いでいるからだ。状況が厳しくなる一方で観光庁は、「落ち着き次第、1日も早く国内外からの多くの観光客に日本各地を訪れていただくことが必要であり、その日に備えて個々の観光資源の磨き上げに注力することが重要だ」と前向きな姿勢を見せている。また、「明日の日本を支える観光ビジョン」での訪日客数2020年4000万人、2030年6000万人といった目標も、高みを目指す成長戦略として維持し、全力で取り組んでいくという。世界的に感染が広がる中、感染源である中国がどうのこうのではなく、東アジア諸国が一体となり、リカバリ策の取り組みに融合し、連携を推し進めていくことが今の日本にとってとても効果的なのである。

高校2年

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、多くの国で入国制限が強化され、日本への旅行もキャンセルする人が増えている。これにより、日本のホテル業界、航空業界、飲食業、お土産販売店などは特に大きな打撃を受けている。このことは生産だけでなく、雇用の減少にもつながってしまう。

近年、訪日外国人客数が予想を上回るペースで増加していたことから、政府は2016年に、「2020年に4000万人」という目標を定めていた。しかし現在、世界中の経済が止まっているため、目標達成はきわめて厳しいだろう。日本を訪れる外国人のほとんどは中国、韓国、台湾などのアジアからの人々だ。コロナ後に外国人観光客は再び来てくれるのか、という不安もある。また、日本はインバウンド経済に依存しすぎとみなされている。現にインバウンド需要の消失は日本の経済に大きな打撃を与えた。

では、コロナ後、政府の掲げている「観光立国」を実現するためには、まず第一に何をすべきか。それは観光業界に今の危機を乗り越えられるような支援を与えることだと思う。なぜなら、これまでインバウンド政策に大きく影響を与えてきたホテル業界などの観光業が次々に潰れてしまったら、元も子もないからだ。そして、それを十分にやった後に、以前訪日観光客の多数を占めていたアジアからの観光客を、これまで以上に増やすための対策を練っていくべきだ。

「コロナ後」の日本の「働き方改革」について (高校2年3年：4月20日、30日課題)

高校3年

インターネットがあるおかげで、新型コロナウイルスの感染予防としてリモートワークを実施し始めた企業が多い。リモートワークを実践した人たちは、思った以上に仕事はできると気づいたのではないだろうか。しかし力仕事など、現場へ行って仕事をしなければならないという人は難しいかもしれないが、とくにデスクワークの人はわざわざ会社へ行かなくても家で仕事することはできる。たとえ会議があるとしても行うことができる。これはインターネットが普及している今だからこそできることである。

新型コロナウイルスが終息して、会社への通勤が可能になったとしても、リモートワークを続行する企業は少なくないだろう。現在リモートワークを行なっていて、やりにくいと思うようなことはあまりないと思う。また、そこで働いている人も会社へ行くとなると、毎日朝早い時間に通勤ラッシュの電車に乗らなければいけないが、リモートワークだと通勤や帰宅の時間も有意義に使うことができる。身体的にも精神的にも疲れがたまりにくくなり、リモートワークの方がむしろ良いと感じているかもしれない。新型コロナウイルスの影響をうけて、止むを得ずリモートワークを行なっている会社は多いと思うが、実際は多くのデスクが家で行えてしまう。よほどのことがない限り、人の多い電車やオフィスなどの体調を崩してしまう可能性のあるところへ行って仕事を行うよりも、リモートワークで仕事をした方が良いと感じているかもしれない。その方が残業や過剰労働の負担も減ったり、なくなったりするかもしれない。直接会って話さなくてもインターネットでコミュニケーションをとることはできる。世界中を混乱させている新型コロナウイルスだけでも、この事態を機に日本や世界の働き方が変わるかもしれない。

高校3年

新型コロナウイルスの感染拡大により日本の「働き方」が大きく変化した。例えば接触を減らすために職場勤務から在宅勤務へと変わった。この働き方がコロナが終息した後も続いた場合、私たちに何をもたらすのか。まず労働者の仕事に対するストレスが減るのではないかと考えた。多くの労働者は毎朝夕混み合う交通機関を利用し職場に向かう。これがストレスになっている人は少なからずいるはずだ。また会議などで出張することもあり交通費や宿代などのお金がかかることでストレスになることもある。これらの問題は現在多くの企業が取り組んでいるテレワーク、リモートワークを取り入れることで解決できる。自宅などで仕事ができれば満員列車に乗る必要はないし、高いお金を出す必要もない。しかし在宅勤務にすることで起こる問題もある。在宅勤務により家族と過ごす時間が増えるとこれまでにない理由で喧嘩をすることが増え家族の関係が悪くなる。これは現在でも問題になっているが、コロナが終息しても自宅で過ごす時間が増えれば同じことである。この感染

症の恐ろしさを知ったことで私たちは終息しても当分の間外出を控えるはずだ。その為在宅勤務に変わったことで生まれる問題を解決する必要がある。在宅勤務のストレスを減らすには家族の関係を良くすることが重要だと考える。

高校3年

深刻な労働力不足を背景に長時間労働、正社員と非正社員の格差、高齢者の労働が問題視されています。長時間労働では望まれる労働年齢と出産と育児年齢などの重なりから女性はキャリアの中断や育児との両立を不安に思い、出産に踏み切れず、男性は育児や家事など女性を助けられない状況にあります。正社員と非正社員の格差では現在、女性や高齢者は制限のない正社員で働き続けることは難しいとされています。それ故に非正社員を選んでしまう割合が増え、国の調査では労働者全体の約4割を占めています。高齢者の約6割は「65歳を超えても働きたい」と思っていることが同じく調査から分かります。ですが実際には65歳を超えても働いている人は約2割です。今回新型コロナウイルスにより職場に行けない、外出ができない状況になり生活が困難になってしまいましたが、その反面明らかになったのはオンラインでの交流の良さ、インターネットを通じた情報伝達の速さです。私達はiPadやパソコンなど情報機器上で顔を合わせて交流することが出来、細かな政府や都からの情報はテレビやSNSなどのメディアやインターネットを通じて知ることが出来ました。このような情報社会だからこそ自宅にいながらもこれらの機器を利用することにより、出勤時間の短縮、出勤地への移動費削減、高齢者の移動の危機性低下を期待できると思います。女性や高齢者が自宅で働けるようになり働き方をより良くし、労働力、生産性を向上させる手がかりになると思います。

高校3年

新型コロナウイルスの影響で、各企業がいろいろな方法で働き方を模索している。在宅勤務、時差出勤、不要不急な出張の削減、そして会議や訪問はビデオを使うなどいろいろな方法で感染拡大リスクの回避の努力をしている。ただし、大手企業で在宅勤務の対応をとっているところはあるものの、全社員を在宅勤務で対応するには限界があると思う。例えば、企業の機密情報を扱っている所や、個人情報も多く扱う部署など、また、工場の勤務やショップの店員さんなどの接客業は、在宅で勤務をすることは不可能だとニュースでも報道されている。未だに多くの企業は制度が整っておらず、会社員は通勤ラッシュの時間を避けることもできずに、毎日感染への不安を抱えながら通勤せざるを得ない状況が続いてしまっている。今後の日本の働き方改革の第一歩目として安全配慮の観点から今回のような緊急事態が発生した場合に、いかに労働者を安全に働かせることが出来るのかという考え方が今後重要になってくると思う。

高校3年

「わざわざ電車に乗らなくても家で仕事ができるじゃないか」と自粛要請が出た今、SNSで多く喧かれています。私も4月からzoomを使い始め、学校に行けなくても授業が出来ることに驚きと安心を覚えています。わざわざ外に(この場合学校や会社)出なくても出来ることはあると知りました。パソコン1台を持ち帰ればどこでも仕事出来る時代、30年前では考えられなかっただろうと思います。私の母もテレワークに切り替えています。

コロナ収束後の働き方改革としては週に2回は会社に行かなくても仕事出来るというようなものを進めたらいいのではないかと思います。会社に行かなくては仕事出来ない、という概念を今この世の中が壊したように思えます。会社に行かなくてもパソコン1台で会議も書類作成も何でも出来るとなった今、通勤ラッシュに揉まれなくても良いのではないかと言われるでしょう。私はテレワークを推進し、もっと働きやすくなる世の中を求めます。

高校3年

連日電車に乗って出勤する会社員の姿が報道されている。出勤する人がなかなか減らない理由として、テレワークが出来るような環境がない他に、各会社の対応の遅れというものがある。日本では多くの企業が何も対応していないと言われているが、そういった企業の中には、2019年に働き方改革が施行される前、かつてあった「残業は美德だ」と言われた時代の独特な風潮の名残があるのかもしれない。他にも昭和によく見られたようなリーダー的な上司は近年なかなか見られない。決断力に乏しい者が多い。特に企業の上に立つ者がそういった風潮を持っていたり、決断力がなかったりすると問題である。政府はこれまでよりも強い要請を求められるが、それ以前に会社が変わることも重要である。

そういった出勤に関するニュースが流れるなか、世間からの批判的な声も少なくない。しかし企業に勤めている個人としては、このコロナという危険に晒されたなか出勤したくないだろう。実際にテレワークでは補えない仕事があったり、出勤しなければ私達の暮らしに影響を及ぼすような仕事もある。そういった事に対する理解も広まって欲しい。何事に対しても物事の一つの視点からでしか批評しない人があまりにも多すぎると感じた。「人の振り見て我が振り直せ」そういった言葉があるように私は多角的に物事と向き合おうと思うきっかけにもなった。

高校3年

今回のコロナ騒動で大きな課題となったのが、日本の働き方についてだ。商談や会議など、日本では直接会って話し合うことが多い。重要な書類は紙で扱い、印鑑を押して契約をする。つまり、直接会ったり見たりしなければならぬ仕事が大半なのだ。そんな中、緊急事態宣言発令によって、仕事でもテレワークが推奨された。テレワークの利点は、今まで日本の会社がしてきた商談や会議というものの概念である直接会って話すという行動をしなくて良い、というところだ。しかし、日

本はインターネットという便利なものを使いこなせていなかった。そのためこのような事態の際の準備が足りず、バタバタとしているのである。そもそも日本はなぜこんなにも感染症に対して無防備なのか。それは今まで日本内で感染症が大きく広がったことがなかったからだ。過去にコロナウイルス程の感染症が蔓延していたら、こんなに対応が遅れずに済んだだろう。そして今回、このような事態が今後の働き方改革に大きく関わり、どれだけ日本が変わっていくのか。私はそこに注目している。

高校3年

コロナ中の今、オンラインで仕事をするのが試され、それが可能になりました。オンラインで仕事をするメリットは2つほど挙げられます。まず1つは、その場にいなくても仕事ができることです。交通費が減ったり、海外とのやりとりがよりしやすくなります。海外出張のほとんど2日間は移動に使われます。オンラインで仕事をするにより移動によるストレスや移動時間がなくなり、よりベストな状態で仕事ができ、よりグローバルな会社にしやすくなります。もう一つは、自分のライフスタイルに合わせて仕事ができることです。少し前では、ブラック企業によって自殺する人がいました。それは会社の仕事スタイルに合わなかったからだと思います。自分のライフスタイルに合った仕事をすれば、仕事で苦しむ人が減ると思います。このように、オンラインでの仕事はいろんなメリットがあります。なので、コロナ後でも積極的に使われると思います。

高校3年

今回のコロナウイルス蔓延によりテレワークが急速に普及したことから、私はコロナ後、仕事のスタイルの幅が大きく広がると思います。今回、緊急事態宣言によって自宅待機命令を出した企業も多く、テレワークが大きな力を持っていることが分かりました。これからは、通勤が当たり前ではなくなり、好きな場所で好きな時間に働くスタイルが一般的になっていくのではないのでしょうか。もしこの自由なスタイルが本当に全国で確立すれば、身体的ハンデを抱えた人や、妊婦さん、子連れの方々ももっと働きやすくなると思います。とくに妊婦さんや小さいお子さんがいる方々は、育休を取ることに今ほど神経をすり減らさなくて良くなると思います。女性は育休を取ることで、働いた年数がお給料に響きやすい日本では、男性に比べて不利になりやすいです。また仕事に復帰するにあたって、ブランクが出てしまう、子供の発熱などによる急な欠勤早退がしにくいなどの問題があります。また、そもそも男性は育休が取りづらいです。好きな場所で好きな時間に仕事ができればこの問題も解決するのではないのでしょうか。さらにこの働き方に世の中がシフトすることで、会社側も、能力のある社員の戦力を最大限に活用することが出来ます。

また、最近新聞で、「テレワークに切り替わって、普段会社で8時間かかっていた仕事が6時間で終わった」という内容の記事を読みました。これは、好きな時間

に休憩を取れるようになったことで、集中を保ちやすくなったからではないかと思います。これは会社の業績面にとっても、働く社員のストレス面においても良い影響を与えていると思います。

高校2年

新型コロナウイルスが広がり、人々は今までの当たり前の日常が奪われ、不自由な思いをしているだろう。しかし、そのおかげで考え方や価値観が変わった人も少なくないはずだ。毎日満員電車で揺られて会社で働く事は、本当に必要なのだろうか。インターネット技術が普及しているにも関わらず、どこかアナログな部分があることに気付かされたのではないか。自粛要請が出て、家にいなければいけない状況になった今、自宅でも出来る仕事は少なからずある。コロナウイルスが収束したらまた今までの日常が取り戻されるが、全く同じ日々が戻るとは思えない。何かしらの変化は伴うはずだ。テレワークを行う企業が増え、在宅勤務がメジャーとなる日もそう遠くないのかもしれない。

高校2年

今回のこのコロナ騒動は日本の働き方を変える1つのきっかけにもなったのだと私は考える。外出自粛を呼びかけられ、多くの企業が在宅勤務へ切り替えた。この在宅勤務はコロナ終息後も続けられるのではないだろうか。日本は少子高齢化によってさらに人手不足が深刻化するとされており、通勤の必要のない在宅での勤務はより仕事を効率化でき、また働き手が少ない地方の活性化にも役立つ。しかし、すべての企業・職種が在宅に切り替えられるわけではない。例えば、医療現場で働く人や社会インフラを担う交通関係の仕事をしている人は、在宅で作業するというわけにはいかない。現場で働く必要のある職業はどうしていくのか、「働き方改革」を進めていくうえでの重要な課題である。

高校2年

現在の働き方改革は有給休暇を取りやすくしたり、残業を減らすことを柱に動いている。しかし、これらは出社することが前提としてある。このコロナウイルス流行を始めてからはテレワークが主であり、今までの働き方改革は適応しにくいと考える。働き方改革とは、働く人が個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分で選択できることである。今までは会社勤めをするために、会社に近いことや交通の便利さが求められていた。そのため、都心やその周りのベッドタウンの周りに人が集中し結果として、感染爆発が起きている。だがテレワーク等の在宅でもできる仕事が増えれば、場所を選ばず無くても良くなる。さらに簡単な事務仕事、生産整備の仕事はAIロボットにやらせれば出勤頻度が下がる。このように、収束してからの働き方はさらに、個人の自由度が上がり個々の要望に応じて変化していくと考えた。

高校2年

働き方改革としてテレワークを採用する。確かにライフスタイルの改善やインターネット社会となった現代において、それは有効かもしれない。しかし、利点ばかりではないのも事実ではないだろうか。テレワーク、つまり在宅勤務はライフスタイルを良くする一方で、安息の場である自宅を奪っているように思う。今までの生活といえば朝出勤し、日中職務につとめ、そして自宅に戻り一日の疲れを取り、忙しい生活の中でひとときの安らぎを得る。そんな場であった自宅が職務の場となった時、人々は安息を得る貴重な場を失うのではないだろうか。

そして、世の中全てにおいてテレワークが推奨された時、最も存在意義が問われてくるのは教育現場なのではないだろうか。日本の教育は基本的に6.3.3.4年制が適応されている。トータルとして、小学校から大学卒業(4年制大学)までストレートで行けば16年間の学校生活を送る。そのうち9年間は国の義務として、学校へ行き、協調性を学び、勉学に努め、体をつくる。だが残りの7年間は義務ではない。つまりは、決して学校に行かなければならないわけではないのだ。それは、集団で過ごし、学び、行動するという事は9年間で身につけられている。ということだ。さらに言えば今、一部の学校ではオンライン授業が受けられ、スタディサプリやN予備校などの授業配信サービスは多く存在し、今現在学校に通わなくとも学びを成立させることはできてしまうのだ。すなわち、学校へ行き、他の生徒と会い、同じ教室で共に授業を受ける意味は生じていない、ということになる。だがこのように全てを画面越しにしても決して築けないのは人間関係だ。ただでさえ「ひきこもり」のように人に会わないことが増加する現代に、テレワークのみにした時、本当の人間関係が築けるのだろうか。一度も会わずに相手のことを信用できるのだろうか。画面越しでなどいくらでも偽れる。例えば会社で他社との商談をしている時、画面や文字だけでは伝わらない熱意や思いはきっとあるはずだ。学校であっても、入学早々から会ったことが一度しかない人間をそう簡単に信用できるだろうか。人は直に関わり合うからこそ、人間関係を親密に築けるものと考え。テレワークを推奨し、働き方改革を行うのも決して悪い事ではない。しかし、人と人の繋がりが希薄な今だからこそ、出勤、通学し、顔を合わせ、直に会話をする。それにはテレワークでは得られない重要な意味があると思う。

高校2年

今回の新型コロナウイルスの影響によって私達は強制的に在宅勤務やテレワークを取り入れなければならなくなった。在宅勤務にしるテレワークにしる始めたばかりのうちは慣れていないことから誰もが不安に思ったことだろう。しかし、このような事態が起きたことで「毎日出勤しなくても仕事ができる。」という環境を私達は知ってしまった。このこと自体を悪いこととは思わない。むしろ前向きに捉えるべきだろう。コロナウイルスが収まったなら、これを機に一気に働き方改革に乗り

出すべきだ！……と言いたいところだがそう簡単にはいかないらしい。現在、新型コロナウイルスのせいで日本だけでなく世界的に経済が落ち込んでいる。そんな中で新型コロナウイルスが終息した後も在宅勤務ばかりでは経済がたちゆかなくなる。つまり、ひといきにこれに乗じて働き方改革を、在宅勤務を増やしましょう、ともいえないのである。働き方改革とは在宅勤務を増やすこと以外にも多くあるが、まずは落ち込んでいる経済を元に戻すことが優先ではないか。それからまた、働き方改革を続けて行けば良いのではないか。今回の出来事で働き方改革に対する意識がグッと高まるかもしれない。だが、それは今急がずとも良いのではないか。経済や人々の心身の傷を癒しながらゆっくりと働き方改革を行なっていけばいいと思う。

高校2年

コロナ後の日本の働き方改革はおそらく自由度の高い働き方ができるような改革が起こると私は考える。というのも今現在、コロナ流行以前には考えられなかったほどの人数が在宅でのいわゆる「テレワーク」を行なっている。コロナ流行以前の日本ならいくら推奨されても行う企業はここまでいなかったらうに何故今急激に増えているのか。それは今まで会社に行かなくても家で片付けられる仕事をわざわざ会社で他の仕事と掛け持ちし、効率を下げていた部分が解消できるとわかったからではないだろうか。もちろん会社で行うべき、複数人で共に行い、商談を進める仕事はある。個人情報を多く扱う保険会社、店頭での販売員の仕事などもテレワークでは行えないかもしれない。しかし場合によっては仕事内容を踏まえた上で週何日かずつに在宅勤務日と出勤日を作ることもできるのである。会社にいる方が効率がいいという人も家で片付けた方が早いという人もいる。そのような効率の見極めや働き方については今回のテレワークを通じて新たな刺激を受け、多くの社会人が自分の働き方を見直すきっかけになったのではないだろうか。この刺激は確実にコロナ後の社会に影響するだろう。今回のコロナ流行においてテレワークが主流化したのは良いきっかけではないだろうか。世の中の間人がより効率的に、より自分に向いた方法で仕事ができる社会の実現に一步近づいたのだと私は考える。

「アマビエ」ブームについて (高校1年生：5月1日課題)

高校1年

ネットのサイトを見ていると、「『アマビエ』いまいちな実績」などと、効果的には“いまひとつ”なところがありそうですが、なぜ、今アマビエはとてもブームになっているのでしょうか。その鍵には、“描く”という行為が関係していると思いました。なぜいきなり描くなの?と疑問に思ったでしょう。書く、という動作を調べると、気持ちを好転させる、とあります。アマビエには『絵(アマビエの姿)を描くことで流行を防ぐ』という言い伝えがあり、昔から予言にまつわる妖怪が現れたとされるときは、いずれも、疫病や飢餓、戦争などで、社会に不安と混乱が多い時代と言われています。そして今、『アマビエ』がブームになっているのも新型コロナウイルスという社会的な混乱のためです。こんな不安の中、たとえ噂でも伝説でも、アマビエを描くことで“コロナウイルスに対しての心の置き所を作りたい”、というのがアマビエブームを引き起こした理由だと思います。これを物語るかのように、検索アマビエで調べ画像を見ると、色とりどりのものや、いかにも妖怪らしいもの、そして和菓子にまで、様々なアマビエが描かれています。アマビエと同じ予言をする予言獣の代表的なものに、人の顔に牛の体を持つ件(くだん)や、女性の頭に亀の体の豊年亀がいます。よっぽどアマビエよりこのような妖怪の方がみんな知っているように思いますが、“姿を描く”という他には無い性質から、これらを抑えアマビエが有名になったのです。

この“描く”ことで気持ちを落ち着かせるという考えが正しかった場合、厚生労働省が出している、感染防止の呼びかけポスターに『アマビエ』が使われているのにも納得がいきます。それは、政府が扱うことによって国民全体広く知られ、混乱の渦が描くことを通じて妖怪の力で前向きになっていく、なんて、そんな意図があるのではないのでしょうか。

実績はいまひとつでも、アマビエは人々を救えるのでしょうか。

高校1年

アマビエについてのサイトを読み、次のような事を感じました。1つ目は、「アマビエは人々の心の拠り所になっている」ということです。私の祖父母は「長年生きていてこのような事態に陥ったことはない」と、この状況に対して驚きと不安を覚えていました。確かに、過去にこれまで長い非常事態宣言が下されるような出来事はありませんでした。これにより現在多くの人が不安やストレスを募らせています。そんな中現れたのがアマビエです。アマビエはテレビやSNS等でたちまち話題になり、後に人々を支える重大な役割を果たしました。その例を挙げてみると、「アマビエンチャレンジ」というものがあります。これはアマビエの絵を描いて

SNS等を利用して他人と共有し合うというものです。新型コロナウイルスの影響で外出自粛が続く今、一人暮らしをしている人など、なかなか他人と交流ができない人が沢山います。しかしこのような問題に対して、アマビエが力を貸してくれました。それは「アマビエチャレンジ」を通して人と人の繋がりを生み出したという大切なきっかけを作ったことです。他にもアマビエの塗り絵やお菓子といった、気分転換に繋がられるものも誕生していることから、アマビエは新型コロナウイルスにより疲れてしまった人の心の拠り所になっていると考えました。2つ目は、アマビエの絵を描くと病を退散させることができるという点から、自分も新型コロナウイルスの蔓延を阻止する一員になれるということです。そして、「アマビエの絵を描く」という形で新型コロナウイルスと戦っている人、医療従事者の方々にエールを送ることができるようになりました。

このようなことから、アマビエは、今新型コロナウイルスと戦う多くの人を明るく前向きにさせてくれる存在だと考えました。

高校1年

私は、なぜ日本で今、アマビエがブームを起こしているのか?なぜ日本人は妖怪や神様を宗教とは関係なく信じるのが好きなのか?ということが気になったので考えたり調べたりしてみました。日本で「アマビエ」ブームが起こった理由は、日本人にとって、妖怪や神様が身近な存在である上、昔から日本人がそれらを信仰の対象として見る、ということが好きだったからだと思います。例えば、ヨーロッパの妖怪ではデビルやサタンのような、いわゆる「悪者」がほとんどで、神ではない未知のものはすべて「悪」として扱われてしまうことが多いです。その一方で、日本では、古くから身の回りのものや自然の中にも八百万の神様や妖怪が宿る、という考え方が浸透しており、お米1粒をとっても、7人の神様がいるといわれているのです。また、身の回りの妖怪の中から例を挙げると、「座敷わらし」という妖怪は過去の伝承では、人がいる家に住みつくことで、それを見た者に幸運が訪れるといわれていますが、座敷わらしが家出をしていなくなった家は没落する、ともいわれているのです。座敷わらしがいなくなったといわれるとある家では、一家全員が亡くなってしまった話もあるそうです。このように、「良い」といわれる妖怪も、必ずしもヨーロッパのように善悪で分けられない両面性を持った人間的な存在だからこそ、良い妖怪も悪い妖怪も身近な話題として扱われたり、取り上げられたりしているのだと思います。それだけでなく、過去の歴史を見ても戦国時代や幕末期、感染症が流行したときなど、社会情勢が不安定になってしまったころに、妖怪や神様がクローズアップされやすいのだと思います。もう1つ例を挙げると、古代では、天然痘という感染症が流行ったことで、人々が苦しめられていたとき、その事態の沈静化を図って奈良の東大寺に聖武天皇によって大仏がつくられ、それが多くの人々から崇められました。このような理由から、アマビエは現代の日本でも新型コロナウイルスの終息への象徴として注目が集められて、私たち国民のなかに大きなブームを巻き起こしたのだと考えました。最近では、ツイッターやインスタグ

ラムでアマビエのイラストを描いて共有したり、アマビエの和菓子やキーホルダーを制作する人も多いです。また、トラックにアマビエの絵を描いてすれ違った車に乗っている人がそれを見かけたら幸せになれる、という活動が大分県の運送会社で進められています。しかし、アマビエに頼りっぱなしで予防をしていなかったり、アマビエがいるから自分は大丈夫だと思い、不要不急の外出をしていてはコロナウイルスの感染拡大の防止を食い止めることはできないと考えています。だからこそ、アマビエは非常事態宣言や外出自粛期間によって閉塞感が漂う中、遊び心を交えてコロナウイルスの終息への願いを広げる大きな役割を担ってほしいです。そして、アマビエの存在がコロナウイルスに感染して隔離されている人や積極的にコロナウイルスの感染予防に取り組んでいる人たちに元気を与えられたらいいな、と思いました。私にも、休校期間中に家でしかできないことがたくさんあると思うので、毎日お勉強したり、長い本を読んだりして、この期間をコロナウイルスが終息したときのためになるような時間にしたいと思います。

新聞の投書欄を読み、自分が今社会に訴えたいこと (高校2年生：4月21日課題)

若者の声

高校2年

新型コロナウイルスの感染拡大によって、インターネット上にはたくさんのデマ情報、つまり嘘の情報が溢れかえっている。そんな中、私たちはどれが正しい情報なのか、どれが嘘の情報なのかを見極める必要がある。

最近若者の外出によって感染が拡大している。「若者のせいでここまで大きな事になってしまった」と書かれている記事をよく目にする。しかし、私の周りの友達、近所の若者は私が外で見かけることはほとんどない。また、友達に連絡をしても全員、家にいると答える。だが、私の周りの友達や近所の人には小さな世界に過ぎず、きっと外にでて遊びふけている若者は沢山いるのかもしれない。自分の周りに起きていることではないため実感が湧かないが、そのような記事として書かれてしまうことはやはり悲しいな、と思う。記事一つで私たち若者全員の価値を下げるような書き方をしているものを見ると胸が痛む。若者の中でもきちんと予防して誘惑に負けず、外に出ないようにと我慢をしている人はたくさんいる。その現実ではなく外に出て遊んでいる一部の人のみを取り上げて、あたかも若者全員が悪い、という記事はその記者の先入観や独断と偏見に過ぎないのではないかと私は思う。

インターネット上に溢れかえる虚偽の情報に惑わされずに自分を強く持ち、この新型感染症に立ち向かっていきたい。

今だから出来ること

高校2年

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の影響で、私の学校は休校となっている。体育祭や文化祭が行われることはないだろうし、修学旅行に行けるのかも怪しいところである。それだけでなく、友人との他愛もないやり取りや放課後の寄り道、休日にしていた出かける約束などのなんてことない日常は気付けば失われ、私達は非日常の中にいる。

勿論、それに関して誰かに八つ当たりするのは筋違いであると認識しているし、これ自体が私達の生命を守るためのことであるのだから不満もないし文句を垂れるつもりもない。友人達と会えずともSNSの普及により離れたところにおいても今は連絡が取り合えるし、見ようと思えばビデオ通話などで顔も見られる。それに家にいる時にしか出来ないこと、例えば、お菓子を作ることや撮り溜めていたドラマを見ることもをするのもいいものだし、今は何も出来ずとも新型コロナウイルスが収束して自由に大手を振って出歩けるようになった時に何をしようか、何がしたいかを考えるのも存外楽しいものである。

私は今出来ることを一つずつやっていけば、いつかそれは報われると信じている。だから、悲嘆に暮れることはないと思う。

先を考えて

高校2年

私は声優が好きだ。毎日声を聴き、イベントがあれば会いに行く。それが人生の楽しみだ。しかし、昨今の情勢を鑑み、殆どのイベントが中止となったり、ラジオの放送日程が変更されたりと、そんな楽しみも減らされている。

私は、今とても寂しい。会えないことがこんなにも辛いとは思わなかった。そして、それは声優本人も同じようだ。突然「はやくみんなに会いたい」と弱音を吐くようにツイートしていた時には涙が出た。懸命に準備してきたステージが無くなる。そんな心情を想像し、私まで悔しさでいっぱいになった。

そんな中、「自分は平気」と根拠のない自信を掲げ外出する人がいる。私は、それを見て非常に憤りを感じた。自分の好きな人は、寂しい気持ちを収束のために我慢しているのにも関わらず、こういった人達のお陰でウイルスの蔓延は止まらない。確かに、長く家にいるとストレスも溜まる。娯楽はないのに仕事は付き纏う状態も辛すぎる。しかし、一人一人の行動でこの先が大きく左右されると散々言われているのにこの行動はどうなのか。今好き勝手してウイルスにかかってしまったら意味が無い。そしてなにより私は、好きな人が壮絶な努力を積み上げ作り上げた輝ける場所がなくなることが、これ以上「仕方ないね」で済まされるのは嫌だ。

このようなことから、今不必要に出かけることは本当にやめて欲しいと思う。できない人がいるなら、政府にもより厳しい対応を求めたい。

不要不急の外出を控える大切さ

高校2年

新型コロナウイルスの影響で、外出自粛の要請が政府から出されているにもかかわらず、外出する人がいるという噂をよく見かける。SNS上に流れてくるのは「東京脱出」という言葉だ。これは若者を中心に行われているもので都市圏から地方に帰省したり地方に行くことを指す。地元の両親が心配だから帰るのではなく、東京に遊ぶ場所がないから地方に行くという理由である。

確かに、家にずっと居ても何も面白くないし、友達とショッピングしたり、カラオケに行ったりする方が何倍も楽しい。しかし、今の世の中の状況を考えてほしい。ウィルスはどこにいるかも誰が持っているのかも症状が出るまではわからない。もしかしたら自分が持っているかもしれない。自分が外出することで撒き散らすかもしれないしどこかからもらって来るかもしれない。それを考えると外に出ずに家にいた方が感染の拡大を防ぐことができる。

今、命がけで医療関係者の方が仕事をしてくださる中、私たちにできることは不要不急の外出を避けて拡大を防ぐことだ。家にいるだけで誰かの命を守ることに繋がるし自分の命を守ることに繋がる。今一度、自分たちができることを考えてほしい。

外出自粛の気持ち

高校2年

ここ数ヶ月間で私の生活はあっという間に変わった。学年が変わる前の自分は、4月になっても登校せずに家でオンライン授業を受けることになるとは想像もしていなかった。もちろん新しいクラスメイトとも直接顔を合わすことができず、GW明けから学校が再開するとは予定されているが、本当にこの1ヶ月の間に収束し、今までの生活を再開できるのかも分からない。

新型コロナウイルスの感染拡大の予防として7都道府県に政府から緊急事態宣言が発令された。その内容として「外出の自粛」とあるが、外国のような強制力が無く罰則もないため、本当に効果があるのか不安なところである。現にロックダウンした諸外国の方々に「今の日本は少し前の私達を見ているよう」などと言われている。今のままではあまりにも日本の国民を押さえこむ力が弱すぎるのではないかと思う。

また、ニュースを見ていた時に「どこまでなら出掛けて良いか分からない。もっと詳しく示してほしい。」とインタビューに答える若者がいた。ここで私はそんなことも考えられないのか、また、なぜそこまで出掛けようとするのか不思議に思った。若者だけではなくお年寄りにも「自分がかからないから大丈夫」といった、新

型コロナウイルスを軽視した考えを持っている人が多いように感じる。たしかに、「コロナ疲れ」といわれるように、ずっと家にいるストレスもあり、外出することでそのストレスを発散することができるのかもしれない。しかし、絶対にかからないと言い切れるわけがないのだ。たとえ本人が発症しなかったとしても、2週間といわれている潜伏期間に周りの人に移してしまう可能性だってある。

今回の新型コロナウイルスの影響で楽しみにしていたイベントやライブが延期や中止になってしまった人も少なくはないだろう。だが、生きていれば必ず次の機会はあるし、家族とも友達ともいつだって会える。かかってからでは遅い。「会わない」という選択も大切な人を守る一つであることを一人一人が意識して外出を控えてくれることを切に願う。

withコロナの時代に私たちが考えること (中学2年：6月23日課題)

中学2年

今は、ウイルスが少し落ち着いて、登校や出勤はできるようにはなったけれども、ここで気が緩んでしまえば、また感染者が増えると思います。現に、今東京は感染者100人とはいかないけれども、1日で約30人ぐらいの人が毎日感染しています。その原因は、ほとんどは夜の街のお店で飲み会などをして感染している人が多いです。やはり、お昼はみんな気を引き締めて、仕事などをしているので、「3密」も気にします。ですが、夜になると仕事も終わって、気が緩んでしまいます。だから、「3密」を少し忘れてしまうと思います。これについて私は、地球はみんなのものなので、みんなが協力しないといつまでたっても、感染者が出続けると思います。ストレスがたまるのも分かります。周りの子と近くで話したいのも分かります。ですが今は、ソーシャルディスタンスを守るのが最優先だと思います。周りの人たちの協力があれば、コロナウイルスも早く終息すると思います。今私たちにできることはただ一つ、「3密」を避けることです。「3密」になっているから、感染者が出ます。決して、会話や飲み会をするなどは言われていません。ただ、「3密」を避けて会話や飲み会はしたほうがいいと思います。私たちの協力があってこそ地球、いいえ宇宙なので、しっかり、「3密」を避けることが私たちの使命だと私は思います。

中学2年

私は、「with コロナ」で授業のリモート化は必須になってくると思う。しかし、オンライン授業は、一長一短だと思う。学校に来ると、友達に会うことができる。分散登校が始まると知ったときは、とても嬉しかった。しかし、当たり前なことだが、登下校に使う時間を費やしたり、電車に乗ることによる感染の危険性を冒して

まで学校に登校する意味があるのだろうか。土曜日は3時間の授業を受けた後、すぐに下校する。登下校で1時間半もかかってしまう。もっと長くかかる人もいるのだ。そうだとすれば、その時間をもっと有効に使うことはできないのだろうか。いずれコロナに関係なく、学校の学習にオンライン化が進んでいくのかもしれない。

オンライン授業によるデメリットは私が思うに2つある。1つは体力の低下だ。今日私は、体育の授業で50メートル走のタイムを計った。自粛中にもなるべく体を動かしていたにも関わらず、体力が落ちてしまっていた。やはり、学校に来ないということは体を十分に動かすことができないのだ。部活動もオンラインで始まったが、家にいるということもあり、学校に行くのに比べ、運動不足になりがちだ。もう1つは全員がオンラインで必要になるパソコンやタブレットを用意することだ。私の妹はそのような機器を持っていない。もしオンライン授業が始まったら準備しなければならないが、簡単にできることではないと思う。

「with コロナ」で生活を変化させるのも大切だが、急速に発展していく、便利な道具や機能に依存しすぎないように、バランス良く活用したい。